

新幹線プレス

2013年2月26日

No.100

発行者

成田隆浩

編集者

教宣部

JR東海労新幹線地本

異常な社員管理を許さず明るい職場をつくろう！ 第18回定期地本委員会開催！

2月14日地本は、目黒さつき会館で第18回定期地本委員会を開催しました。冒頭、成田委員長は「春闘は大産別がベア見送りを決め、厳しい状況であるがJR春闘としてベア一律2000円、定期昇給一律6000円（基準昇給額一律1500円×乗数4）を目標し職場から闘おう」「高齢者雇用の問題はJR東海労だけの問題ではなく、全社員に関わることだ。希望する全社員が年金満額支給されるまで働けるようJR東海労の主張を広めていこう」「検修体制の見直しは大きな削減で到底認められない。出向先の労働条件も大きく変わる。撤回を求め団体交渉の開催を追求していく」「報復処分撤回裁判に勝利した。闘いの教訓を我がものとして、強制出向延長取消裁判にも勝利し、山本修さんを元の職場に戻そう」などと力強くあいさつをしました。



来賓の本部淵上委員長、地本伊藤OB会会長より連帯のあいさつをいただき、渡辺弁護士より裁判闘争の成果が報告され、原告の斉藤書記長より裁判闘争を闘っての特別報告がありました。

会社の理不尽に声を出そう！

その後、質疑では①強制出向延長撤回裁判がはじまる。出向延長を規定するものはく根拠がなく理不尽だ。裁判勝利に向けて職場から闘う。②報復処分撤回闘争を勝利した。闘いの意義、目的を職場で議論し、各地本・分会に行って訴えてきた。この闘いが勝利判決を勝ち取った。③検修体制の見直しは絶対認められない。職場集会を開催するとともに反対の意思を掲示で明らかにしてきた。④一方的な休日出勤が解消されていない。



また、年休取得も困難な状況にあり、解消に向け職場から声を出していく。⑤若い社員が自殺をした。会社の「命令と服従」「規律と忠誠心」の異常な労務管理の結果だ。明るい職場づくりを目指し職場からたたかう。など活発な意見がだされました。その後、杉澤書記長が「大二運や松山君の闘いに学び、全ての闘いを組織拡大へ」と総括答弁を行い、春の闘いなどの闘う方針を全体で確認し、団結ガンバローで委員会は終了しました。